

協議事項22

次期神戸市教育情報基盤サービス再構築（KIIF3）について

次期神戸市教育情報基盤サービス再構築（KIIF3）に伴う新機能について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和2年8月24日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 長谷川 達也

次期神戸市教育情報基盤サービス再構築（KIIF3）について

次期神戸市教育情報基盤サービス再構築（KIIF3）に伴う新機能導入により、保護者・教職員の利便性向上を目指します。

1. 保護者との連絡ツール（幼、小、中、特、高）

（1）メール機能

学校園から保護者へメール（メッセージ）を一斉送信する機能です。



- 保護者は、Eメールでの受信に代えて、スマートフォンの専用アプリを使用することも可能
→ 保護者：ポップアップ機能により、学校園からの連絡に気づきやすい。
- 学年、クラス、児童生徒名など送信先の指定が可能
さらに○○部活動といった送信先も作成可能
→ 教職員：必要な範囲に限定してメール（メッセージ）を送信できる。
- 教育委員会事務局からも学校園指定でメール（メッセージ）送信が可能
→ 保護者：全市的な連絡事項を直接受け取ることができる。
教職員：伝言転送のようなメール（メッセージ）送信が不要になる。
- メール（メッセージ）にファイルを添付可能
→ 保護者：学校からの配布資料を整理保存しなくてもいい。
教職員：印刷しなくてもよい。配布作業も軽減できる。
- 重要メッセージには既読確認が可能
→ 教職員：メッセージを確実に伝えることができる。
(既読確認できない場合は、再送信や電話連絡など)

(2) 遅刻・欠席連絡機能

スマートフォンの専用アプリから、学校園(担任)へ欠席連絡ができる機能です。



- 確実に連絡することが可能
 - 保護者：電話の待ち時間がなく、忙しい朝のイライラが軽減される。
 - 教職員：忙しい朝の電話連絡が軽減される。
- (続けて欠席する場合など) 前日の時間外でも、欠席の連絡が可能
 - 保護者：忙しい朝の連絡を避けることもできる。
- 管理画面による一覧表示のほか、詳細表示も可能
 - 教職員：一括して欠席確認ができる。

(3) アンケート機能

スマートフォンの専用アプリで学校からの照会に回答できる機能です。



- スマートフォンでいつでも回答可能
 - 保護者：回答しやすくなる。(回答率の向上)
- 自動集計による統計が可能
 - 教職員：集計作業が簡略化される。

※いずれの機能についても、運用ルールを決め、周知徹底することが必要。

2. 自動採点ソフトウェア（中、高）

テストの回答用紙をスキャナで取り込み、自動採点できるソフトウェアを導入し、数多くのテストを採点する教員の負担を軽減します。



選択式問題の自動採点が可能です。
(手動で○△×を入力することも可能です。)

- 選択式問題の自動採点
→ 採点時間の短縮
- 設問毎にクラス全員の回答を一覧表示
→ 判断基準の統一、採点時間の短縮、採点ミスの低減
- 合計点数の自動集計
→ 採点（合計）ミスの低減、作業時間の短縮
- その他
→ データ化による回答用紙の紛失防止

3. 無線LANの導入（幼、小、中、特、高）

職員室や事務室、パソコンルームに無線LANを導入し、教職員は、いつでも、どこでも簡単にKIIF3のネットワークを利用できるようになります。



(注意) 普通教室や一部の特別教室は、電子黒板等と合わせたICT機器の整備事業やGIGAスクール構想への対応事業で、令和2年度中に整備を行います。

神戸市教育情報基盤サービス（KIIF）について

（１）概要

神戸市教育情報基盤サービス（KIIF）とは、円滑な学校運営になくてはならない「教職員が日常的に使用している端末」、「ネットワーク」及び「ソフトウェア」のほか、「学校園のパソコンルームの児童生徒用端末」など、教育現場の様々なICT機器・環境を包括的に提供しているサービスである。

（２）委託期間、委託先等

現在の事業者との契約が令和２年12月をもって終了することから、新たに調達を行い、令和３年１月稼動に向けて再構築を進めている。

- ・契約事業者：次期神戸市教育情報基盤サービス再構築（KIIF3）提供業務共同企業体
代表者 西日本電信電話株式会社 兵庫支店
- ・当初契約金額(概み)：5, 778, 300, 000円
- ・契約日：令和２年１月30日
- ・サービス提供機関：令和３年１月～令和７年12月までの５年間

〔参考〕再構築の方針について

再構築においては、より安全かつ業務改善に寄与するものとする。

（１）セキュリティ対策の強化

- ・「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（平成29年10月文部科学省策定）」に沿った、セキュリティ対策（外部のインターネットと校内のネットワーク分離や重要なファイル暗号化）を実施する。

（２）新たなツール・ソフトウェアの導入

- ・保護者への一斉メールや、毎朝の保護者からの欠席連絡、アンケート機能を有する保護者との連絡ツールを活用し、保護者の負担軽減、教員の事務作業軽減を図る。
- ・テストの回答用紙をスキャナで取り込み、自動採点できるソフトウェアを導入し、数多くのテストを採点する教員の負担を軽減する。
なお、採点はOCR機能により、スキャナで取り込んだデータを判別（数字、カタカナ）し、予め設定しておいた回答との突合により自動採点を行う。

（３）ネットワーク環境の高速化等

- ・端末の増加、動画コンテンツをはじめとしたインターネットの利用機会の増加に対応するため、通信機器の増強、回線の強化を行う。
- ・無線LANを導入する。